

泌尿器科

■一般目標 GIO

- ・ 国民の健康増進や医療の向上に貢献するため、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技術を習得する。
- ・ 泌尿器科的研修として、卒後臨床研修を修了した後、泌尿器科学総論、一般泌尿器科診療、泌尿器科基本的手術手技に必要な基礎知識と技術を習得する。それらにより泌尿器科関連領域(サブスペシャリティ)の基本的知識と技術を包括しながら生涯にわたって修練をする礎を築くことを目標とする。

■行動目標 SBO

- ① 指導医の監督の下、担当する患者について診療計画をたて、必要な指示をスタッフに対し滞りなく行うことができる。
- ② 適切な問診と診察を行い、ガイドラインに則した各種アンケート調査や血液生化学的検査や画像診断(KUB、CT、MRI、RP や IVP といった尿路造影検査、尿道膀胱鏡等)、生理学的検査(尿流動態検査等)の施行方法やその結果の解釈ができる。
- ③ 担当患者の診断と治療について、指導医と十分な討議ができる。
- ④ 担当患者の診断と治療について、患者自身やその家族、コメディカルスタッフに対して分かりやすい説明ができる。また相手からの質問に対しても紳士的な態度で十分な補足説明ができる。
- ⑤ 泌尿器科分野の救急患者に対して適切な初期対応ができる。また上級医へ適切なコンサルテーションが行える。
- ⑥ 泌尿器科領域の緊急を要する病態に対する診療に初動から積極的に関わり、一連の診療における理解を深める。
- ⑦ チーム医療および地域連携の意味を十分に理解し、各部門におけるコメディカルを交え、入院中ならびに退院後の適切な診療療養計画を構築することができる。

■学習方略 Learning strategy

LS1: On the job training

- ・ 数名の病棟患者を受け持ち、指導医の監督の下、その診断と治療を行う。
- ・ 指導医とともに病棟回診を行い、診断・治療に関して討議を行う。
- ・ 泌尿器科的基本手技をある程度習得した後は、泌尿器科オンコールの一旦も担う。

LS2: 症例プレゼンテーション

- ・ 病棟回診時、他科への診療依頼時等において症例提示を行い、その病態や治療について理解を深める。

LS3: 学会への参加・発表など

- ・ 研修医報告会や各種研究会、東北地方会、東部総会、泌尿器科総会に積極的に参加し、かつ発表も行っていく。
- ・ 研修医のための院内勉強会や抄読会に積極的に参加し、討議にも加わる。また指導医の監督の下、担当患者に関する文献検索を行ってEBMの理解を深め、その実践に取り組む。

LS4: 時間外泌尿器科オンコールの診療への参加

- ・ 指導医と勤務形態を相談の上で時間外オンコール対応にも参加し、泌尿器科的緊急対応について学び実践できるようにする。

LS5: 基本的手技の習得

- ・ 泌尿器科的基本手技の習得のため、手術や放射線部や外来での検査に立ち会い、物品の準備や機械類のセッティングならびに手技を見学する。また DVD や手術書等を通じて事前学習を行い、実際の場で指導医に講義を受けながら理解を深め、実践できるように努める。

■評価 evaluation

- ① 日常業務においては、回診時や手術時にその都度指導医やコメディカルスタッフと討議を行い、患者の病態把握と基本的知識の習得度を評価する。
- ② 学会発表を行う場合は、事前に複数回にわたって指導医のチェックを受け、発表事項の評価と精度の向上へのアドバイスを受ける。
- ③ 研修修了時には当院における研修責任者の面談を行い、GIO、SBO に関する評価とフィードバックを行う。またコメディカルを含めた総括的評価は、EPOC および病院全体で行い、研修管理委員会から各研修医にフィードバックされる。
- ④ 泌尿器科研修は、一般社団法人 日本泌尿器科学会が定める研修目標を踏まえて総て行われる。研修修了時には指定の様式に基づいて、それぞれ自己評価と指導医評価を行い、その結果を泌尿器科専門医試験の際に提出する。
- ⑤ 総括的評価、コメディカルによる評価は、EPOC 及び病院全体で行い研修管理委員会から各研修医にフィードバックされる。

■週間スケジュール

月～金 午前 基本的に病棟回診・透析室回診。

午後 指定された手術や外来検査に立ち会い指導を受ける。

土、日 指導医の指定された日にオンコールの上級医とともに通常業務を行う。